

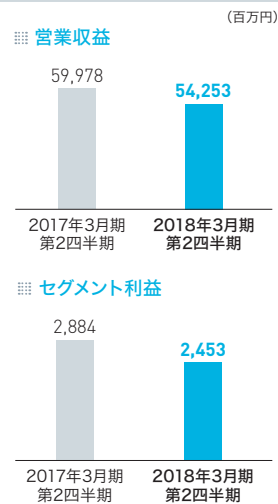


2018年3月期第2四半期の概況

オリジナル番組投入による競合サービスとの差別化としては、音楽コンテンツ『YUZU 20th Anniversary DOME TOUR 2017 ゆずイロハ』、オリジナルドラマ『弱虫ペダル Season2』などを放送しました。スポーツコンテンツでは『UEFAチャンピオンズリーグ17/18』、『B.LEAGUE 2017-18 シーズン』の放送を開始しています。また昨シーズンに続き、『スカパー！プロ野球セット』を販売し、スカパー！加入者の維持・拡大を図っています。

「スカパー！オンデマンド」においては、衛星放送のチャンネルや番組をリアルタイムでスマートフォンやPC、タブレット等で視聴できるIPリニア配信を62チャンネルに拡大しました。また加入者拡大の取り組みとして、6月及び9月に「加入料0円キャンペーン」を実施し、さらに10月からは加入料を無料としました。「スカパー！プレミアムサービス」における4K専門チャンネル視聴環境整備の一環として、7月より4K対応プレミアムサービスチューナーの販売を開始しています。

Jリーグ放映権喪失等に伴うサッカー関連収入・その他視聴料収入減少から営業収益は前年同四半期比57億円減少しました。サッカー関連のコンテンツ費用が36億円減少したこと等により営業費用は前年同四半期比53億円の減少となり、セグメント利益は15.0%減となりました。



TOPICS

「UEFAチャンピオンズリーグ17/18 全125試合生中継」

スカパー！では、今シーズンもUEFAチャンピオンズリーグをグループステージから決勝まで全125試合生中継します。欧州No.1を決める戦いでは各国リーグチャンピオンを含む強豪32クラブが激突。レアルマドリッド、香川真司所属のドルトムントなど多くの人気クラブが出場します。

※UEFAチャンピオンズリーグをご覧いただくには「スカパー！サッカーセット」をご契約ください。他にも国内外のさまざまなサッカー関連番組がTVはもちろん、スマホ・PC・タブレットでもお楽しみいただけます。

詳しくはこちらを検索ください
<https://soccer.skyperfectv.co.jp/>



加入の状況

	2017年3月期 第2四半期累計	2018年3月期 第2四半期累計
新規加入件数		
スカパー！ 合計	17.4万件	15.9万件
スカパー！	14.0万件	12.7万件
スカパー！ プレミアムサービス	3.1万件	2.8万件
スカパー！ プレミアムサービス光	0.4万件	0.5万件
純増数	△3.7万件	△3.5万件
累計加入件数	344.6万件	328.5万件

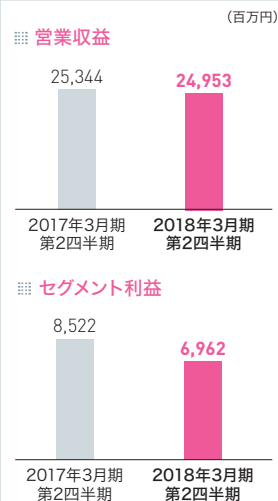


2018年3月期第2四半期の概況

国内衛星ビジネスにおいては、携帯電話基地局向けバックホール回線の提供拡大や、既存顧客に対する長期契約の更新を着実に進めて衛星通信市場の基盤を強化しています。防衛省より受注したXバンド衛星通信中継機能等の整備・運営事業に関し、輸送中の事故により損傷した衛星1号機の修理は順調に進んでおり、平成30年3月の打ち上げを予定しています。また国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)が開発を進めている光データ中継衛星では運用・維持管理にかかる業務を受注しました。移動体衛星通信ビジネスでは、船舶向け、航空機向けのインターネット接続サービス用の衛星回線の利用が堅調に推移しています。

またドローン事業に関しては、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの研究開発受託や、国土交通省の定める空中写真測量の作業要領に準拠した測量システムを搭載した新型ドローンの販売を開始するなど、産業用としての利用拡大を図っています。

放送トランスポンダ収入の減少により、営業収益は前年同四半期比4億円減少しました。また前期に打ち上げた新規衛星等による減価償却費の増加13億円等により、営業費用は前年同四半期比12億円増加し、セグメント利益は18.3%減となりました。

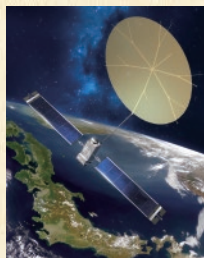


TOPICS

通信衛星JCSAT-17の 調達契約を締結

2019年度に打ち上げを予定している通信衛星JCSAT-17は、移動体通信用Sバンド及びCバンドを搭載。

長期契約の下、(株)NTTドコモがご利用を予定されています。



©Lockheed Martin

平面アンテナによる コネクテッドカー向け衛星通信に成功

スカパーJSATとKymeta Corporation(米)は共同で、平面アンテナ端末を用いて、走行中の車両で衛星通信回線を確立するコネクテッドカー実験に成功しました。

このカイメタ社の衛星捕捉技術を活用した平面アンテナ端末は、車両・航空機・船舶等への搭載により、移動中の双方向通信を可能とします。また、平面アンテナの“自動捕捉機能”、“省スペース”という利点により、災害時等の携帯電話の利用が困難な状況・場所においても、複数の車両に対するデータ同報通信や、人命救助活動に用いられる特殊車両等での活用が可能となります。当社の衛星通信は今後もIoT分野において「つなげる」開拓をさらに進めていきます。



平面アンテナ(自動車の屋根に設置)